

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第24期・第4回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第24期・第4回）

議 事 要 旨

- 1 日 時 令和2年3月23日（月）10:30～12:30
- 2 場 所 日本学術会議5階 5-A（1）（2）
- 3 出席者 上田昌宏、上村想太郎、宇高恵子、老木成稔、岡田眞里子、片岡幹雄、神取秀樹、笹井理生、七田芳則、諏訪牧子、曾我部正博、寺北明久、徳永万喜洋、豊島陽子、永井健治、中村春木、難波啓一、野地博行、原田慶恵（19名）
- 欠席者 佐甲靖志、嶋田一夫、杉本亜砂子、美宅成樹、山縣ゆり子、吉川研一
- 参考人出席 有田正規（バイオインフォマテクス分科会委員長）

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議題

- （1）前回議事要旨の確認
- （2）IUPAB congress 2023の開催および国際関係について
- （3）バイオインフォマテクススキル標準について
- （4）「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」について
- （5）「ロードマップ2020」について
- （6）次回の公開シンポジウム、学術フォーラムの開催について
- （7）次回分科会の開催予定について
- （8）その他

5 議事要旨

(1) 前回要旨の議事確認 (資料1)

第24期生物物理学分科会の原田慶恵委員長から、前回(第3回)の議事録の内容に関してメール審議で確認済みであることが報告され、承認された。

(2) IUPAB congress 2023の開催および国際関係について (資料4)

IUPAB野地博行委員長から、国際関係に関する報告と、IUPAB congress 2023開催の準備状況の説明があった。

・ IUPAB congress 2020 (IBC2020) について

新型コロナに考慮しながらも、当初予定どおりの2020年10月26-30日開催に向け、準備を進めている。日本からは、3名のゲストスピーカーが確定している。

・ ABA (Asian Biophysics Association) Symposium 2018 について

次回の開催地は台湾であり、野地委員をはじめとして、ホームページが由良敬お茶の水女子大学教授の尽力を得て公開されるなど、日本生物物理学学会が貢献している。

・ 日本生物物理学学会国際関係委員会 (IAC)

前回(第3回)分科会で議論された、日本生物物理学学会国際関係委員会(IAC)が、日本生物物理学学会に設置された。Chair personに日本生物物理学学会会長である原田委員長、Co-chair personに西坂崇之 日本生物物理学学会国際関係担当理事が就任し、Board memberに5名が就任した。

・ IUPAB congress 2023

前回(第3回)分科会で議論された、日本生物物理学学会 IUPAB2023実行委員会(Executive committee)が設置された。会頭には野地委員が就任した。Advisory boardも設置し、委員には生物物理学学会会長経験者を中心に就任してもらっている。

(3) バイオインフォマティクススキル標準について (資料5)

参考人出席の有田正規バイオインフォマティクス分科会委員長より、スキル標準策定に関し説明があった。バイオインフォマティクス分野では、若手人材の育成を、企業と協力して行ってゆく仕組みを作成することが必要とされている。そこで、企業間およびアカデミアとの間で需要と供給を成立させるために、2018年からバイオインフォマティクス学会(JSBi)と

ミックスメディカル学会（Omix）は、経済産業省と一般社団法人・産業情報化コンソーシアム（JBIC）とともに、バイオインフォマティクス（BI）スキル標準の策定を進めている。スキル標準とは、BI能力の大まかな格付けにあたり、企業等が人材育成や企業戦略において指針として用いることができるものである。IT（情報技術）スキル標準が、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）により、複数レベルに段階づけられて策定されており、これを参考にBIスキル標準を作成している。

日本生物物理学会にも参加して意見を出してもらい、2021年3月を目途に、JSBi, Omixと日本生物物理学会の3学会で承認し、将来的にはBI技術者認定試験（現在はJSBiが実施）を3学会合同で主催し、バイオインフォマティクス振興に繋げたい。

以上の有田委員からの提案に対し、生物物理学会が参加することは有意義であるとの意見が出され、参加に向けた議論が行われた。

(4) 「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」について（資料2）

難波啓一委員から、学術会議の「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」の「重点大型研究計画」として採択されたことに関し、説明があった。前回（第3回）分科会で報告したように、6年前、3年前に提案してきた内容にその後の進展を加えて、2019年3月に申請した。前回申請時の2016年9月ヒアリングを経て重点大型研究計画として採択された継続課題として、今回はヒアリングを経ることなく、第24期学術の大型研究計画マスタープランの重点大型研究計画に採択され、日本学術会議の提言として1月30日に公表された（資料2）。

(5) 「ロードマップ2020」について（資料3）

永井健治委員から、文部科学省「ロードマップ2020」への応募に関して説明があった。文部科学省から2月初めに「ロードマップ2020」募集について連絡があった。前回（第3回）分科会で報告したように、大阪大学では前回申請時の反省から「大阪大学先導的学際研究機構超次元ライフイメージング研究部門」を新設して、受け皿となれるよう準備してきた。その部門長である永井健治委員が中心となり、前回2017年と同様に大阪大学から、「ロードマップ2020」へ応募した。

生命科学、物理学、科学、数理情報・計算科学等を統合的に用い、生命システム動態を「目で観る」ための様々なイメージング・計測技術の開発を

行う。生命科学はもとより、医療・創薬、有用物質生産等の産業的にも貢献力を有する学術的意義がある。提案母体である日本生物物理学会に加え、生物科学学会連合、5大学附置研究所、理化学研究所、情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター（CiNet）など、広く研究者コミュニティから合意を得ている。国内共同研究・共同利用ネットワークに加え、70カ国が参画するHuman Cell Atlas事業のアジア拠点である理化学研究所が有する海外ネットワークを加え、世界レベルの共同利用体制を構築するといった、大きな特長が紹介された。

第24期第4回生物物理学分科会および合同会議が開催される前に締切が設定されたため、事前に申請した事情も説明された。

以上を受け議論を行い、本分科会にてロードマップ案を承認した。

(6) 次回の公開シンポジウム、学術フォーラムの開催について

原田慶恵委員長から、本分科会後の同日午後に予定されていた公開シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症のために延期になったことと、予定されていた内容と講演者について説明があった。新型コロナウイルス感染症の収束状況を見計らって、開催を目指すことが提案され、承認された。

(7) 次回分科会の開催予定について

年2回の開催予定で進めてゆく方針で、公開シンポジウムと合わせて行うこととして、日程が決まったら連絡する。

(8) その他

・ IUPAB のjournal, BREV特集号発刊の報告

中村委員から、20th IUPAB Congress in Brazil、昨年2019年9月開催の第57回日本生物物理学会年会、各大学・研究機関の研究を紹介する特集号として発刊されたことが報告された。今年の第58回日本生物物理学会年会についても、日本生物物理学会欧文誌 *Biophysics and Physicobiology* (BPPB) で特集したいとの提案があった。